

第2回 留萌圏域障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会 議事録

日 時 令和2年(2020年)1月20日(月) 13:30~15:30

場 所 ほっとスペースHuG (留萌市末広町2丁目35番地)

出席者 別紙議事概要のとおり

推進員1名、委員7名、参考人1名、事務局3名、傍聴1名 計13名

- 議 題
- 1 一般事業所向けの周知について
 - 2 地域づくり委員会の役割について
 - 3 障がい者のおかれている状況について

議 事

(1) 議題1 「一般事業所向けの周知について」

事務局から資料1に基づき説明

【説明概要】

- ・昨年度から検討していた、一般事業所への周知についてハローワーク留萌へパンフレットの配布を依頼した。
- ・地域づくり委員会の周知のため、留萌商工会議所へ「地域づくり委員会からのお知らせ」を、かいぎしょNewsへ掲載依頼した。

※ 質疑応答は、全体を通して一括確認

(2) 議題2 地域づくり委員会の役割について

事務局から資料2に基づき説明

【説明概要】

- ・北海道障がい者条例に基づき設置されている「障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会」について、これまでに、地域づくり委員会の役割の確認や、地域課題の検討を行っているところ。
- ・今回は、留萌管内で、実際に障がいのある方がどのような生活や活動をしているのか、現場を見学することとした。委員の置かれている立場も違うことから、それぞれの活動等を知るため、まず、第1回目として、留萌市内の就労継続支援B型事業所 ほっとスペースHuGさんで開催させていただいた。
- ・配布した資料のほか、北海道障がい者条例地域づくりガイドライン及び解説、サポートブックや合理的配慮の事例集、これまでの地域づくり委員会への申立や相談事例について、障がい者保健福祉課のホームページに掲載されている。
- ・委員の皆様には、このような具体的な取組を知っていただき、実際身の回りで

見聞きすることで、困っている方がいた場合、どこに相談すると良いかなど、助言してほしい。

(3) 議題3 障がい者のおかれている状況について

ア 松本推進員から説明

- ・留萌市内にある就労継続支援 B 型事業所について、[資料3](#)から説明
- ・現在は、横のつながりがあまりない。つながりがあれば、利用者さんのことや他でどのような作業を行っているか知ることで、利用者さんへのアプローチの仕方もあると感じる。そのことにより、できうる限り、利用する方に合ったサービスを提供することも可能になる。
- ・委員全員で、松本推進員が理事長を務める「ほっとスペースHuG」の作業を見学する。主な作業内容は、さき織りや革製品を使った小物製作等で、作業場所はとても明るく、利用者の方は、小さな声でおしゃべりをしていることあるが、静かに作業をされている。掃除当番の張り紙により、誰が清掃するかわかりやすくしている。

イ 小野コーディネーターから[資料4-1](#)と[資料4-2](#)に基づき説明

【説明概要】

- ・障がいのある方は、就労継続支援等、日中の活動について福祉サービスを活用しているが、それ以外の、家にいたり買い物に行ったりと地域で暮らしている中で、意思決定を上手に行えない場合に困りごとが発生することもある。
- ・障害者差別解消法の合理的配慮として示されているように、配慮を必要とする方が、何を求めているか意思を確認するなど、合意があつての配慮が必要。
- ・発達に障がいがある場合は、自己決定をするための必要な情報を入手したり理解することが難しい場合があるので、理解や共感の上で配慮をすることで、居場所を作ることが出来る。
- ・障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会として、障がいのある方もない方も、障がいや育った環境などで、様々な問題を抱えることもあるが、わかりやすい枠組みをするなど工夫や、理解と共感により合理的配慮を提供できるようになっていくといい。

ウ 委員質問・意見

〈委員〉

- ・今日の見学で、皆さんがとてもクリエイティブな作業が出来るということに驚いた。昔のイメージで、シール貼り等の作業しか出来ないと偏見を持っていた。

〈推進員〉

- ・ここは、3障がい全て受け入れており、作業内容も、それぞれの人に合ったものを提供できるよう工夫している。単純作業が必要な方もいるので、枠組みを作って、そこにシールを貼る、など、その人にあった作業内容も必要。

〈委員〉

- ・就労継続支援B型事業所に定員があると思うが、いっぱい利用できないという状況はあるのか？

〈委員（相談支援専門員）〉

- ・定員待ちはないが、時期によって、希望の事業所へ行けず、他の事業所へ通所の調整をすることがある。

〈委員〉

- ・障がいを持つ児童が、そのまま大人になっても留萌に住めるような場、この事業所のような場所、留萌スタイルのものなどあるといいと思った。

〈委員〉

- ・今回、作業している場所を見学させていただき、皆さんが現場に親しんでいるのを感じ、また、スタッフが、利用者の事を理解して支援しているのが伝わった。
- ・地元で働ける場所、自立できる場所が出来れば、地域にとどまることができるので、そのための基礎作りをアプローチしていけたらと思う。

〈委員〉

- ・自分は障がいがある。親が、障がいを持つ子は、障がいを持つ者同士で過ごした方が良く考えていたため、学生時代は市外で暮らしていた。卒業してから、留萌に戻ってきたが、友達もいない状態でさみしかった。ただ、事業所に通所したりすることで、演劇に参加したりと友達が増え、暮らしやすくなった。
- ・障がいがあるとかないとかではなく、誰でも住めるよう、手を差し伸べてくれるような地域なんだと感じた。

〈委員〉

- ・統計では、高等養護学校への進学率が98%くらいとなっているが、現状は、毎年、1,000人ずつ辞めている状態だと聞いている。それを追う統計もなく、実際、その後、どのような支援を受けているのか心配である。ここ管内にも、

そういった形で戻って来たり、支援を受けないまま実家にいる人などもあると思うので、そういった面も視野に入れて考えて行かなければいけないと思う。

〈委員〉

- ・現在は、障がい児に関わる事業所を立ち上げているが、障がいを持つ子だけではなく、不登校の子も多いようで、相談が増えている。今後、その子たちが、どこへたどりつくのか心配である。

〈委員〉

- ・留萌市内での福祉に関する支援を見ていると、高齢者に対する支援の事業所は多いが、福祉サービス事業所が少ないと思う。今日の話にもあった発達障害だが、子どもだけではなく、大人も多く、事業所が増えてほしいと感じる。

エ まとめ

〈推進員〉

- ・何人かの委員から意見があった障がい児について、親が活着ているうちは支援できるが、絶対的に親の方が先に亡くなる。そのときに対応できる地域を作ることが行政の目的であり、地域の方々にもそのように考えてもらうことが必要。生まれてから死ぬまで、地域や学校、福祉などが溶け込み、ひとつになって子どもを見ていく場づくりが必要。
- ・地域づくり委員会は、障がいのある方が暮らしやすい地域であるために、暮らしづらい事への相談を受ける組織ではあるが、委員会の中で、横のつながりが出来ることから、地域の課題について、さらに、話し合える場として活用し、地域づくりをしていきたい。

(4) その他

〈事務局〉

- ・申立や相談がなければ、本日が、今年度最後の委員会となる。委員の皆様は、3月までの任期となっているが、今後も御協力よろしくお願ひしたい。